



# 関宮学園

学校だより 44号

R8. 3. 19

## 校訓「敬・愛・信」

### 前期課程修了おめでとうございます



3月19日(木)に修了証書授与式を行い、6年生21名が、保護者の皆様、在校生、教職員に見守られ、修了証書を手になりました。6年生の輝かしい未来を祈念しています。式辞の一部を紹介します。

令和七年度の皆さんの活躍は前期課程のリーダーとしてふさわしいものでした。皆さんのアイデアが形となった児童会活動は特筆すべきものでした。学校かくれんぼやエスワングランプリなどの企画が、明るく楽しい学校を実現してくれました。ありがとう。

行事も思い出深いものばかりです。修学旅行は、楽しむ時には楽しみ、学習する時には学習する、そのような充実した二日間でした。一体となった野球の応援、マスコットキャラクターが投げ入れた景品をキャッチした時、みんなで喜んだことは忘れられません。運動会は、応援合戦をはじめ六年生のリーダーシップが成功へと導きました。学習発表会では、皆さんの演劇と「やさしさに包まれたなら」の合唱によって、会場が六年生のやさしさに包まれました。

お仕事体験ワークショップやコロンビア音楽のワークショップなど体験学習も印象に残っています。これからも、興味や関心をもってさまざまな体験を積み重ねてください。豊かな体験は、皆さんを成長させてくれます。

さて、ミラノ・コルティナオリンピックのフィギュアスケート・ペアで、「りくりゅう」ペアが大逆転で金メダルを獲得したことは、記憶に新しいところです。二人は、メダル候補にあげられますが、ショートプログラムでまさかの五位と出遅れます。木原選手は「もう絶望しかなかった。心が折れてしまっていた。」と泣き崩れます。いつもは、引っ張る立場の木原選手を、今回は逆に三浦選手が力強く引っ張ります。コーチからも「野球は九回裏三アウト取られるまで試合は終わらないんだ」と勇気づけられ、「みんなが僕の心を立ち直らせてくれた。チームの力は大きかった」と気持ちを切り替え、史上最大の逆転劇を演じます。

このことは、私たちに二つのことを教えてくれます。一つは、あきらめないことの大切さ、もう一つは、仲間との絆の大切さです。仲間との絆は、これからの皆さんの人生において、逆境を乗り越えてくれる力になってくれることでしょう。

また、去年は大阪・関西万博が開催された年でした。前回の万博から半世紀以上が経過し、当時、夢の科学技術といわれたもの、例えば、「夢の電話」として登場した「ワイヤレステレホン」や「電気自動車」などが令和の時代に実現しています。次の万博が開かれる頃には、夢のまた夢と考えられていたことが皆さんの手によって成し遂げられているはずです。次の時代を切り拓いていくのは、皆さんです。そのような人になれるよう、これからも学び続ける皆さんであってください。

また、6年生の文集に寄せたメッセージも紹介します。

「初心忘るべからず」

この言葉は、室町時代に生きた世阿弥という人物に由来します。最初のころの気持ちを忘れてはいけないという意味です。前期課程修了という節目を迎え、自分を見つめ直し、新たにチャレンジしていこうとするみなさんに贈ります。これから生きていくうえで、困難を乗り越えなければいけない時がやってきます。そのような時は、「原点回帰」基本に帰ることで、解決の糸口が見出せるかもしれません。

## 1年間ありがとうございました。

3月24日(火)に令和7年度修了式を行います。修了式では、今年度のはじめに子どもたちに話したことを振り返ります。

- ①ともに勉強したり、遊んだりする仲間を大切にできましたか。
- ②夢や目標を達成するために、準備や努力を大切にできましたか。
- ③明るく楽しい学校生活にするために、前向きな気持ちを大切にできましたか。

保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動にご協力とご理解を賜り、感謝申し上げます。引き続き、関宮学園をよろしく申し上げます。